地の囁きの音に伏せばながようしん ゆめしない おいまん かめ に酔い 草淑々の声すなりくさしゅうしゅうこえ

遠き 憧れ逝にし日よ 辛夷の花の香に迷う 夜光流るる芝草ややこうなが

森に 桂 の火は燃えぬ影にあくがれ彷徨えば 窓辺に招く幻のまどべまねまぼろし

去り行く青春を惜しむかなくれない。 かまくれない の ひかく はる できる かたく かまく ないまくれない の ないまくれない の ないまくれない の ないまくれない の ないまくれない かまくれない かまくれない かまりば

五.

勿の湖に星は飛ぶっ うみ ほし と その下希望なる